

【学校教育目標】
考え表現し深め合う児童の育成

【本年度の重点目標】
・既習をもとに自分の考えを筋道立ててつくり、わかりやすく説明する力の育成

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	校内組織運営の充実	1 職員の協働体制を充実する。 〈結果〉分掌部会の事前に管理職と部長との協議を行い、部会における話し合いの視点と役割分担の明確化を図ることができた。教員のAB評価 83%	4 <input type="checkbox"/> 下小の先生たちが仲良さそう。その雰囲気子どもに通じるので、何より大事だと感じる。	<input type="checkbox"/> それぞれの組織における取組のねらいの共有と具体策の更なる具体化及び役割の明確化を推進する。
		2 PDCAのサイクルによるマネジメントを行い、改善につなぐ。 〈結果〉「CAP・Dシート」を活用し、月ごとの指標と実効策を明確にした。そして、確実に実行できたかの評価と改善を打ち出す、月ごとのサイクルを回してきた。教員AB評価 75%★	3 <input type="checkbox"/> PDCAサイクルがうまく循環しているようなので、継続してほしい。	<input type="checkbox"/> 「CAP・Dシート」の活用を継続する。その中で、評価・改善の在り方についてレベルを上げる。
		学力向上プランの推進を図る。 〈結果〉児童の学習状況の把握に応じて習熟度別分割授業を確実に実施してきた。単元テスト毎に検証を行い、全国平均点を9割以上の児童が通過できるようになった。MIMや検定でも成果が出た。週末課題の自己選択・個別化の取組を起動できた。教員AB評価 80%	4 <input type="checkbox"/> 学力向上検証のサイクルが回っているようなので、くり返しの指導の充実を図り、継続してほしい。	<input type="checkbox"/> 習熟度別授業、MIM、漢字・算数検定は継続実施。 <input type="checkbox"/> 週末課題の自己選択・個別化も継続実施。効果的な自己選択に向けて、高学年では家庭学習計画が自分で立てられるように指導する。
		いじめ問題に組織的に取り組む。 〈結果〉いじめ・生活アンケートを計画通り実施できた。毎回、係が集約することで、児童の様子を把握してきた。いじめの事案が発生した。教員AB評価 83%	4 <input type="checkbox"/> 家庭でのゲームの課金をめぐるトラブルについては、保護者の啓発が必要である。セキュリティをかけることなど、大人がすべきことを認識することが大切である。	<input type="checkbox"/> アンケートの内容を見直し、児童が困っている状況を書きやすくする。 <input type="checkbox"/> 「SOSの出し方に関する教育」を実施する。 <input type="checkbox"/> 保護者と学ぶ学習を設定する。
		総合所見	学力向上に係る短期検証改善サイクルが好循環した。特に、落ちこぼしやアンダーアチーバーを出さないように、形成的評価結果をもとにした習熟度別分割授業を開始し、実施の定着を図ることができた。単元ごとに検証を重ねた結果、9割の児童が全国平均値を通過できた。来年度も取組を継続する。	
	「や」やさしい子	1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。 〈結果〉多くの児童が学校は楽しいと答えている。児童AB評価 95% 教員AB評価 85%【総合 90%】	4 <input type="checkbox"/> 多くの児童が楽しいと答えているので、今の取組を継続すること。	<input type="checkbox"/> 学習づくり、生活づくり、仲間づくりを継続して充実させる。
2 縦割りで楽しく活動する子どもを育てる。 〈結果〉上級生が下級生を指導しながら、様々な縦割り活動を実施し、そのつど、グループや班を単位にふり返しを行うことができた。児童AB評価 93% 教員AB評価 88%【総合 91%】			4 <input type="checkbox"/> 縦割りの活動の中で、言葉遣いなども関連して指導できるとよい。	<input type="checkbox"/> 各学年の発達の段階に応じた縦割り活動における立ち位置を整理し、個人としての振り返りを充実させる。
3 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 〈結果〉あいさつ週間を設けて実施することで、意識を高めることができた。児童AB評価 88% 教員AB評価 70%【総合 79%】			3 <input type="checkbox"/> あいさつはしているが、恥ずかしがって大きな声を出せない子がいる。高学年を育てて、お手本にさせるような指導をするとよい。	<input type="checkbox"/> あいさつ週間は、継続実施。 <input type="checkbox"/> 道徳科における学習を充実させ、挨拶の価値をしっかりと学習させる。そして、生活の中で実践できるようカリキュラム編成を工夫する。
4 人が傷つく言葉を言わない子どもを育てる。 〈結果〉児童の自己評価と教員の自己評価に違いがある。児童の意識が低い部分がある。児童AB評価 90% 教員AB評価 68%【総合 79%】			3 <input type="checkbox"/> 「悪い言葉」という意識が薄く、何でもなく使っている実態がある。家庭の中でも言葉遣いを大切にするように、保護者へ啓発してほしい。	<input type="checkbox"/> 道徳教育、人権教育を充実させ、言葉の重みについて考えさせる。
5 「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」が素直に言える子に育てる。 〈結果〉児童の自己評価と教員の自己評価に違いがある。児童の意識が低い部分がある。児童AB評価 93% 教員AB評価 78%【総合 86%】			4 <input type="checkbox"/> きちんと声に出して意思表示ができるように育てたい。上記3, 4, 5は関連がある。高学年を育て、縦割りのよさを生かして指導するとよい。	<input type="checkbox"/> 素直に生きることの素晴らしさを道徳科・道徳教育の中で理解させ、実践化を促すための仕組みをカリキュラムの中に位置づける。
総合所見		あいさつの声の大きさや、はっきりと意思表示することについて課題がある。高学年が手本を示せるように導くようにしてはどうかというご意見をいただいたので、高学年に高学年としての自覚や誇りを感じさせるような取組をして高学年を育て、縦割り活動で発揮させることで、下学年の児童が学んでいくように導く。		

教育課程	「ま」まなぶ子	1 授業では、自分の考えをかいったり、発表したりできる子どもに育てる。 (結果)自分の考えを書く、表現する基となる思考力を付けるため、主題研修を中心として授業研究を行い、思考活動の設定に全職員で取り組んだ。児童AB評価 85% 教員AB評価 78%【総合 82%】	4	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 思考ツールを活用し、考えることを指導するという方向をもち、思考活動を設定した授業づくりを継続実施する。
		2 図書館の本をたくさん読む子どもを育成する。 (結果)「うちどく」の取組を核として、省メディアにも取り組むことができた。また、図書委員会の活動、てんとう虫号、読み聞かせGTの活用等、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。児童AB評価 85%★ 教員AB評価 73%【総合 79%】	3	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 継続実施する。 <input type="checkbox"/> 教科学習における図書の活用を促すとともに、読んだ本の記録を忘れないようにさせる。
		3 家庭で約束の時間、学習できる子どもを目指す。 (結果)家庭学習の時間が守れている児童は96%。土日に学習できている児童が95%。嘉麻市の目標指数をクリアできた。児童AB評価90% 教員AB評価80%【総合 85%】	4	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 週末課題の個別化を継続する。
		4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子を育てる。 (結果)学習発表会を百周年記念バージョンとして全校で取り組んだことで、郷土を知り、親しみ、愛着を深め、誇りをもつという気持ちまで高めることができた。児童AB評価 93% 教員AB評価80%【総合 87%】	4	<input type="checkbox"/> 公民館関係の人や車の出入が多くなると考えられる。児童の安全確保に万全を規すようにしてほしい。	<input type="checkbox"/> 下山田公民館が白馬ホールに移転することを契機として、地域とともにある教育活動の深化を目指し、教職員の先進地視察を予定する。 <input type="checkbox"/> 公民館との情報共有に努める。
		総合所見 来年度から、新学習指導要領が完全実施となる。評価のあり方も「資質・能力」を重視したものに変わっていくことを受け、一時間ごとのねらいの明確化を図り、活動性の高い学習展開の工夫、友だちとの協働した学びづくり等に力を注いでいく。			
「た」たくましい子	「た」たくましい子	1 学校を休まないように気をつける子どもを目指す。 (結果)2月時点で、不登校児童0。不登校兆候児童3名。児童AB評価98% 教員AB評価85%【総合 92%】	4	<input type="checkbox"/> 多くの児童が休まないように気をつけていることは素晴らしい。決まった子が遅刻している状況なので、個に応じた取組を進めて欲しい。	<input type="checkbox"/> アクション3に基づく取組を継続する。
		2 元気よく外で遊ぶ子どもを育成する。 (結果)休み時間は外で遊ぶ姿が多く見られる。児童AB評価 90% 教員AB評価 83%【総合 87%】	4	<input type="checkbox"/> 取組を継続する。家庭への協力もお願いする。	<input type="checkbox"/> 体力アップシートの活用により、外遊びを推奨する。 <input type="checkbox"/> 縄跳び集会や持久走大会等、きっかけ作りを大切にす。
		3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育成する。 (結果)淡々と掃除をしている。偶々の汚れに目を向けて掃除しているとはいえない。児童AB評価 90%★ 教員AB評価 68%【総合 79%】	3	<input type="checkbox"/> 掃除の場所に応じた人数になっているかを見直してみるとよい。クリーンアップ活動などを節目として意識化を図るとよい。	<input type="checkbox"/> 校舎内外のどこが汚れているのかを意識する活動を仕組む。
		4「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを目指す。 (結果)スマイリーノートの取組については、提出率が昨年度の80%から98%にアップした。高学年の方が達成率が低い。児童AB評価 88% 教員AB評価 73%【総合 81%】	4	<input type="checkbox"/> 保護者の協力が不可欠である。取組を継続する。	<input type="checkbox"/> 継続して、PTAの「新家庭教育宣言」の取組を有効活用しながら、家庭への啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 省メディアの学習の実施を継続する。
		5 安全に注意して登下校できる子どもを育成する。 (結果)児童の評価と教員の評価に違いがある。大多数の児童は安全に気をつけている。児童AB評価 98% 教員AB評価 70%【総合 84%】	4	<input type="checkbox"/> 分団登校を継続する。地域への見守り協力を依頼する。	<input type="checkbox"/> 交通安全教室・防犯教室等)を活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 <input type="checkbox"/> 110番の家について、整理する。
		総合所見 スマイリーノートの取組に対して、保護者からの協力が得られている。生活の評価・改善については、強化週間を節目としながらも、日々、自らの生活を省みる態度の形成を目指す。また、個に応じた指導や対応について、継続していく。			